

所属・氏名（ 薬学部 薬学科 氏名：山口 雅史 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Mitotic abnormalities and spindle assembly checkpoint inactivation in a cell model of Shwachman-Diamond syndrome with mutations in the Shwachman-Bodian-Diamond syndrome gene, 258+2T > C.	共著	2024 年 10 月	Drug Discov Ther 2024 Nov 15;18(5):283-289	SDS モデル細胞において、SBDS 発現低下により紡錘体チェックポイント機構の異常が起こることが示唆された。 (総ページ数: 6 頁) (著書全体の著者名 Yukihiro Sera, Tsuneo Imanaka, Yusuke Iguchi, <u>Masafumi Yamaguchi</u>) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) SBDS Gene Mutation Increases ROS Production and Causes DNA Damage as Well as Oxidation of Mitochondrial Membranes in the Murine Myeloid Cell Line 32Dcl3	共著	2024 年 6 月	Biol Pharm Bull 2024;47(7):1376-1382	SDS 患者から同定された変異を持ったモデル細胞 (SDS 細胞) をゲノム編集を用いて樹立した。この細胞は ROS 産生、ミトコンドリアの酸化脂質、そしてゲノム DNA の切断の亢進が認められた。 (総ページ数: 7 頁) (著書全体の著者名 Yukihiro Sera, Sakura Yamamoto, Akane Mutou, Shuta Koba, Yuki Kurokawa, Tsuneo Imanaka, <u>Masafumi Yamaguchi</u>) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (学術論文) Knockdown of the Shwachman-Diamond syndrome gene, SBDS, induces galectin-1 expression and impairs cell growth	共著	2024 年 4 月	Int J Hematol. 119(4):383-391	SDS 患者由来の細胞で Gal-1 遺伝子の発現上昇を見出した。Gal-1 は分泌タンパク質であるため、正常細胞に添加すると SDS 患者由来の細胞と同様に細胞増殖が低下した。 (総ページ数: 8 頁) (著書全体の著者名 <u>Masafumi Yamaguchi</u> , Yukihiro Sera, Hanae Toga-Yamaguchi, Hrokozu Kanegane, Yusuke Iguchi, Kingo Fujimura) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (学術論文) 学習への不安感と自己調整学習方略そして学業成績の関係	共著	2025 年 3 月	広島国際大学基盤教育センター紀要 第 9 号, 18-27, 2024	自己調整学習方略と学習に対する不安感が学業成績に及ぼす解析を行った。学習に対する不安感は、メタ認知、動機づけ、行動に関連があったが、不安感と成績には関係がなかった。 (総ページ数: 9 頁) (著書全体の著者名 <u>山口 雅史</u> , 兒玉 安史) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (学術論文) ピア・サポート活動の導入と実践	共著	2025 年 3 月	広島国際大学基盤教育センター紀要 第 9 号, 29-39, 2024	広島国際大学薬学におけるピア・サポートクラブの導入経緯と実践、その効果について論じた。 総ページ数: 10 頁) (著書全体の著者名 兒玉 安史、金子 哲夫、山中 浩泰、 <u>山口 雅史</u>) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能